



令和2（2020）年度「不登校を考える学習会」（第1回）を行いました。

2020.10.10(土) 小都市人権教育啓発センター

演題：よいよい親子関係を築くために

講師：C & S 音楽学院 学院長 毛利 直之 さん



【学習会の様子】

これまで、小中学生のときに不登校を経験した多くの生徒と接してきた毛利さんのご経験をもとに、親として我が子とどう接していけばいいのか、どんな見方をしていけばいいのかなどをお話しいただきました。先生が話された内容の一部をご紹介します。

○ 傾聴(最後まで話を聴く)と関係づくり

現在は、子育てがもっとも困難な時代です。日本の高校生は自分に自信がないという調査もあります。「比較と脅迫」（「～しておかないと・・・になってしまうよ」等の言葉）による教育が当たり前になっている負の側面です。

また、本校の卒業生で運良く歌手デビューできたとしても、大変な困難があり、大変な努力が要求されます。だから、

困難に正面から向き合い、自身で乗り越える力をつけることを大切にしています。

C & S 音楽学院には、小中学校のときに不登校を経験し、心が傷ついている生徒も多く通ってきます。まずは、子どもの話を最後まで聴き、関係性をつくることに努めます。子どもを理解しようとします。持っているだけの知識と経験と情報と自分の全人格をもとに、子どもを励ましながら。そして、「自分の力以上のことをしなくてもいいから、今日できるベストを尽くそう。」と声をかけることを大切にしています。

○ 子どもは希望を持って生きている

その後、ご自身も不登校の経験があるC & S 音楽学院卒業生の篠原凜太郎さんによるコンサートを行い、後半は篠原さんも交えて参加者からの質問や悩みに答えてもらいました。

「子どもが毎日、家でYouTube やゲームばかりしている。どう接したらいいのでしょうか。」

- ・[毛利さん] 中には、子どもをエサにしてお金を稼ごうとしている「ワナ」も存在することは、親として子に伝えることは大切。
- ・[篠原さん] YouTube が魅力的だが、生産的な時間ではないし、やめた方がいいことは、本人もわかっている。決して、長時間やりたくてやっているわけではない「もう一人の自分」がいる。



【篠原凜太郎さんのコンサートの様子】

「不登校になっている子どもを見ると、子どもがずっと『暗いトンネル』の中にいるような気持ちになってしまいます。どう声をかけたらいいですか。」

- ・[毛利さん] 「子どもは良くなりたいたいから苦しんでいる」という視点に立ち、子どもの「変わりたい」を信じて接する。子どもの話を最後まで聴く。
- ・[篠原さん] 子どもは経験がないから、「暗いトンネル」とは思っていない。大人が勝手に「暗いトンネル」と決めつけているので、決めつけないでほしい。本人は希望を持って生きている。

○ 学習会を終えて

参加者からの質問や悩みに答えてもらう場面では、毛利さんのご経験と、篠原凜太郎さんの思いに心揺さぶられる場面がたくさんありました。参加者からのアンケートにも、子どもと向き合おうと悩みながら光を見出そうとする親の思いや、過去の自分を振り返る思い、立場の違うところからの意見が聴けて良かったという声、不登校の経験があるかないかに関わらず多くの方に聴いてほしいなどの声がありました。

【参加者の声（アンケートより）】

- 子どもの姿は社会の縮図だと思います。「どんな人でありたいか」ということをいつも自分に問いながら、人と接することを大切にしたいです。子どもたちの姿をまるごとひっくり返して「大丈夫」といえる人でありたい。心を洗う時間になりました。
- 子育てに正解もなくやり直しもきかないので、不登校の子の親でなくても、早く聴いておけばと思いました。篠原さんのお話も聴けて良かったです。
- いろんな立場の人からの声が聴けて、すごく共感できました。
- 入口を間違えないように話をするというより、その前の関係づくりが大切だと感じました。篠原さんの「もう一人の自分がいる」「見守ってほしい」という声が心に響きました。
- 「昔はこうだったから」など自分の育ってきた経験では解決できない難しい問題が次々に出てきているように思います。「それでも、前を向いて生きていくしかないよね」と親子で話し合う機会が増えていくことを願わざるをえません。
- 毛利さんのお話やスライドは、毎回良い刺激になり、気持ちが新たにになります。
- 自分の子育てのことを思い出すと、忙しくてしっかり向き合うことができいていませんでした。寝る前に絵本を読んであげることが唯一の子どもとの時間でした。今の親も子も忙しすぎるように思います。もっとゆっくり歩んでいってもいいように思います。子どもの声に耳を傾けることが大切ですね。
- 子どもが生まれたときの原点を思い出しました。篠原凛太郎さんコンサートの歌はとても繊細で力強く、よかったです。